

◆ 基礎情報

計画名	在学生在が卒業生と考える共立リーダーシップ 卒業生リーダーシップインタビュープロジェクト
実施責任者	ビジネス学部ビジネス学科 高橋 幸子
対象者	ビジネス学部ビジネス学科 2・3・4年 9名
実施期間	2025年4月～2026年1月

◆ 取組み概要

全体の概要（この取組みを始めた背景や目的を簡潔に記述）

本プログラムの目的は、共立女子大学・短期大学でリーダーシップを学んでいる在学生在が、卒業生との対面インタビューを通じて、卒業後にリーダーシップがどのように活かされるかを理解することにある。

近年、学内ではリーダーシップを発揮する機会が増え、学内におけるリーダーシップについては理解が進んでいるが、社会に出てからのリーダーシップ発揮については実際の経験に基づく情報が少ないのが現状である。そこで、本学でリーダーシップを学んだ卒業生にインタビューを行い、社会ではどのような場面でリーダーシップが求められ、本学での学びをどのように実践しているかを学ぶ。これにより、在学生在はリーダーシップの学びを生涯にわたり活かし、社会で役立つスキルを身につけることが期待される。

◆ 取組み全体の流れ

- 5月 3・4年生のメンバーで構成されたサポーターチームのキックオフミーティング、活動方針の確認
- 6月 2年生のメンバーで構成された運営チームのキックオフミーティング、サポーターメンバー、サポート教職員との顔合わせ、活動方針の確認、定例ミーティング開始
- 7月 インタビュー対象者へのコンタクトとミーティング
サポート企業とのミーティング・インタビュー方法のレクチャー会、インタビュー準備（ロケハン、質問項目準備）
- 8月 インタビュー実施
- 9～11月 サポート企業の支援を受けながら、記事執筆、サイト作成
- 10月 中間振り返りミーティング
- 1月 webサイトにアップ、最終振り返りミーティング
- 2月 リーダーシップGPサイトにアップ予定

◆ 取組みの成果

成果物（webサイト）

<https://sites.google.com/kyoritsu-wu.ac.jp/sotsugyosei-interview-2025/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

私にとってのリーダーシップは
ジグソーパズル

共立女子大学卒業生の活躍に迫る！

卒業生たちはどのようなフィールドで活躍し、学生時代に培った経験やリーダーシップの経験をもとにどのように仕事に活かしているのでしょうか？今回は、ビジネス学部を卒業した松本美沙さんにインタビュー。現在のお仕事や学生時代の思い出、学びがもたらした成長について詳しくお聞きしました！

【PROFILE】

松本美沙さん
ビジネス学部ビジネス学科卒 三井住友信託銀行株式会社勤務
リーダーシップ開発科員補佐
2014年度に1人として活動



◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	<p>チーム活動を円滑に進めてもらうため、チームの成果目標と状態目標、チームのルール、個人目標の設定を行ってもらった。その際、教材2リーダーシップ行動確認シートと、教材3チームの方針・ルール作成シートを活用した。</p> <p>今まで取り組んだことのない活動に関する目標設定であったため、スムーズな目標設定が行えるよう、経験のあるサポーターメンバーに積極的な関わりをお願いした。設定目標は、チームとしてあるいは個人として適切であったかなどの振り返りを活動中盤と活動後に行った。</p>
協働活動	<p>本プロジェクトは、運営チームを中心とした活動に対し、サポーターチーム、教職員、サポート企業が支援を行う構造となっていた。運営チームが活動計画を立てたりToDoリストを作成して活動を進めていくなかで、支援者はそれぞれの経験や専門性に基づきスケジュールの組み方や活動全般の進め方についてアドバイスを行った。プロジェクト達成のために、授業等で対面での協働が難しくなる場合を想定し、当初からSlackを用いてメンバー全員が常時情報を共有していた。同時に、定期的なミーティングを運営のみ、あるいはサポーターや教職員込みで行い、問題解決をはかっていた。</p>
共立リーダーシップの観点での振り返り	<p>10月に運営チーム、サポーターチーム、教員で中間振り返りミーティングを行った。中間振り返りシートとリーダーシップ行動確認シートを用い、それぞれがリーダーシップを発揮できるチームだったのかを振り返り、良かった点、難しかった点を整理した。</p> <p>1月に運営チーム、サポーターチーム、教員で全活動の振り返りミーティングを行った。最終振り返りシートとリーダーシップ行動確認シートを用いたチーム振り返りと、ループリックを用いた個人振り返りを行ったうえで、今後のリーダーシップ発揮に関するアクションプランを一人ずつ発表した。</p>

◆ 学生の成長に関する総括

活動開始前に、ビジネス学部の必修科目としてリーダーシップ開発を学んでいたことから、活動の趣旨をしっかりと理解して意欲的に取り組んでくれた点は非常に良かった。時に、活動を進める中で授業とは異なる壁にぶつかることもあったが、運営チーム内での連携、あるいはサポーターチームや教員との連携をしっかりと行いながら活動を継続させていた点は素晴らしい。継続できたのは、これまでの学びをベースに、本プロジェクトでの応用の仕方を個々人やチームが工夫したからであると考え。このような姿勢に学生の成長を感じた。

半面、活動終盤で運営チームの学業が多忙となり、活動がなかなか進められなかった。結果的にスケジュールが1か月ほど先延ばしになってしまった。サポート企業から最初にスケジュール管理のアドバイスを受けていたものの上手いかなかったことから、マネジメントについては今後の課題となった。

◆ 取組みを通した全体の所感

卒業生へのインタビューを通じて、在學生は自分たちの現在の学びがいかに将来の可能性を広げているのか実感している様子であった。同時に、外部の方からの俯瞰的な視点でのコメントは、在學生自身が自らの立場を客観視することに役立っていたと思う。在學生がこのような気づきが得られたのは、本プロジェクトの成果と考える。また本プロジェクトは、在學生がサポート企業や卒業生と言った外部の方との直接的な関わりの中でリーダーシップを発揮する点が特徴的であった。実際、普段の様子とは異なり、緊張感と責任感を持って外部の方とやり取りができた経験は、学生の自信につながったと感じている。

一方、学業と学業外の活動との両立を目指したスケジュール管理の難しさを感じた。学業が優先になることは当然だが、だからこそ少しずつ早めに取り掛かり時間を作ることなどをアドバイスするものの、先の見通しを共有することが案外難しく、結果的にアドバイスが活かされない場面も少なくなかった。

◆ 今後の展開

インタビュー内容は、卒業生から在學生に向けたメッセージではあるが、同時に、本学ビジネス学部の良さをアピールする良い材料にもなっている。したがって、入試・広報課と連携し、webページの広報活動への活用を検討したい。